

破砕業に係る事業計画書及び収支見積書の記載例

現在、保管基準を超えて解体自動車等を大量に保管している場合は、記載すべき事項の内容が異なりますので、事前にご相談ください。

破砕業の事業計画書及び収支見積書

平成16年10月 日 現在作成

1 事業の全体計画（業務を行う時間、従業員数、休業日、扱う車種（乗用車、大型車）を含む。）

解体業者から解体自動車（乗用車及び小型商用車）を引取り、シュレディングマシンで破砕後、鉄、非鉄、ASRに分別する。一部解体自動車をプレスして鉄スクラップ原料とする。分別・処理した物品の扱いは次のとおり。

鉄・・・電炉メーカーに売却

輸出業者に売却

非鉄金属・・・非鉄金属商社に売却

ASR・・・自動車メーカー等の指定する引取場所に引渡

（フロー概略図を添付）

業務時間	8：30～17：00	従業員数	20人	休業日	日曜日・祝祭日
------	------------	------	-----	-----	---------

2 解体自動車等の引取実績及び計画

年 度	13年度実績 （3年前）	14年度実績 （2年前）	15年度実績 （1年前）	許可取得後の年間計画
引取台数	20,000台	22,000台	24,000台	25,000台
主な引取先	解体業者等	解体業者等	解体業者等	解体業者等

3 破砕実績（圧縮のみ含む）

年 度	13年度実績 （3年前）	14年度実績 （2年前）	15年度実績 （1年前）
年間処理実績	20,000台	22,000台	22,000台
年間稼働日数	280日	280日	280日
平均処理実績	71台/日	79台/日	79台/日

4 破砕等能力

1日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
100台/日	280日	28,000台

5 保管の状況

解体自動車		A S R	
保管量の上限	1,200 台	保管量の上限	1,000 m <sup>3</sup>
現在保管量	1,000 台	現在保管量	800 m <sup>3</sup>

破砕前処理のみの場合は、破砕前処理後の自動車の保管について記載すること。

6 年間収支見積書

項 目		前年度(15年) (決算月(3月))		今年度の見込み (決算月(3月))	
		年度 (千円)	(1台当) (円)	年度 (千円)	(1台当) (円)
売上高(全体)	ア(総売上収入)	276,000	12,546	524,000	21,833
売上原価	イ(使用済自動車等購入費)	-120,000	-5,000	75,000	3,125
その他の経費	ウ	269,100	12,232	235,800	9,825
	うち廃棄物処理委託費	エ	4,182	26,200	1,092
営業利益	オ=ア-イ-ウ	126,900	5,768	213,200	8,883
営業外損益	カ(主に支払利息(注))	-3,000	-136	-3,000	-125
経常利益	キ=オ+カ	123,900	5,632	210,200	8,758
解体自動車等年間引取台数(台)		24,000		25,000	
解体自動車等年間処理台数(台)		22,000		24,200	

(参考)

	前年度末	現 在
負債総額(年度末残高) (千円)	100,000	100,000

(注) 1 「1台当」額は、売上原価は引取台数で、その他は処理台数で割ること。

2 支払利息のみの場合又は支払利息が受取利息より多い場合はマイナスで計上すること。